学園報
皇學館
第35号

発行・編集　学校法人皇學館　企画部
TEL0596-22-6496・8600

大　学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-0201㈹　FAX0596-27-1704

高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596-22-0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596-23-1398㈹

●今号の注目記事

1面
新研究棟（9号館）が竣功
久邇宮朝彦親王120年祭を斎行

2面
鈴木英敬三重県知事が講演
公立学校教員採用試験合格状況

3面
さよなら1号館 記念懇談会を開催

4・5面　学生編集ページ
皇學館生に実りの秋
（学祭・クラブ活動報告）

6面　高校・中学
家庭に感謝する日の行事 など

7面
谷省吾元学長の葬儀しめやかに

8面
英国・ケント大学
23人が夏季短期留学

創立一三〇・再興五十周年記念事業
新研究棟（九号館）が竣功

皇學館創立一三〇・再興五十周年事業の一環として平成十六年より開始された一連の記念施設建設計画。その有終の美を飾る注目の建物である新研究棟（九号館）が十月七日、ついに完成の日を迎えた。この竣功によってキャンパスの北側は一層の拡充をみせ、本学の知の拠点・教学の場としての発展に大きな役割を担うことになる。

新研究棟（九号館）は鉄筋コンクリート造りの五階建で、総面積は約三千平方メートル。環境に配慮した最新の省エネ機能が整っており、昨年八月に完成した講義棟（六・七号館）、実習棟（八号館）とは渡り廊下で結ばれている。これら四館の「新教育研究棟」は、本学の新たな教育研究活動の拠点となるものだ。

教育研究の拠点施設として大きな役割が期待される9号館

言うまでもなく大学は教育と研究の両輪が一体となってはじめてその責務を果たすことができる。九号館は主に教育学部・現代日本社会学部の研究室として活用されるが、教員にとって研究室は学問を究め思索を深める場であり、学生にとっては教員が研究に没頭する姿や交わす会話から多くのことを学び吸収する場になるであろう。

館内を案内し、周辺の自然環境や設備を説明する清水学長

これまで倉田山キャンパスは研究室や講義室が集中する二・三・四・五号館、式典やイベントが行われる記念講堂、附属図書館、神道博物館など南側が中心であった。今回、新研究棟が完成したことによって北側が整備拡充され面目を一新。南・北両側のキャンパスが補い合い、大学全体として格段に充実した施設を備えるに至った。本学の建学の精神、清新な学風を受け継ぎつつ、次代を担う人材や新たな教学の息吹がこの棟から生まれることを期待したい。

無事の竣功を寿ぐ

新研究棟の完成を受け、十月七日に執り行われた竣功祭・竣功式には来賓の方々をはじめ工事関係者や学校関係者など四十六名が参列。無事竣功に至ったことを感謝し寿いだ。

無事の竣功を感謝し、浦安の舞が奉奏された

挨拶に立った佐古一洌理事長は「一号館で学んだ者としてこの偉容を目の当たりにすることは感無量」と感慨深げに語り、「創立一三〇周年、再興五十周年を大節として、わが大学の更なる発展のための入れ物はここに過不足なく完備した。優れた人材の育成と地域により密着した教育施設としての役割を果たしていきたい」と抱負を述べた。続いて清水潔学長は「居は気を移す」との言葉を引用しながら昨年の新講義棟の完成によって教員や学生の士気が上がった例を挙げ、新研究棟の竣功に期待を寄せた。そして、記念事業の推進にあたり惜しみないご支援・ご協力をくださった関係者の方々に厚い感謝の意を表した。

竣功式（直会）では和やかな歓談のひとときがもたれた

出席いただいた鈴木健一伊勢市長は「白を基調としたシンプルで清々しい雰囲気は教育環境にふさわしいと思う」と感想を話し、「倉田山は伊勢における重要な文教地区。新しい学舎の完成はほかの教育施設に良い刺激を与えるのでは」と語っていた。

9号館　研究棟
- 総面積　2,966㎡（899坪）
- 地上5階建

5階	研究室・特別研究室・大会議室・多目的トイレ
4階	研究室・教材室
3階	研究室
2階	学部長室・学科研究室・大学院研究室・大学院演習室・講師控室・多目的トイレ
1階	研究室・小会議室・多目的スペース・管理室
各階	給湯室・男女トイレ・エレベーター

本学の学祖
久邇宮朝彦親王120年祭を斎行

時の神宮祭主であった久邇宮朝彦親王の思し召しにより、本学は明治十五年（一八八二）四月三十日、創立された。その本学の学祖ともいうべき朝彦親王が明治二十四年（一八九一）に薨ぜられてより百二十年目にあたる今年、本学の原点を確認するよすがとして「久邇宮朝彦親王百二十年祭」が十月二十七日に斎行された。

十時二十分より記念講堂で執り行われた祭典には佐古一洌理事長や清水潔学長をはじめ収容人数の千人を超える学生や生徒が参列。欧化主義の嵐が吹き荒れた歴史の変換期にあって軽視されつつあった日本の伝統文化とその心を継承発展し、世界の文明に寄与すべく本学の設立に力を尽くされた朝彦親王を偲び奉った。

厳かに執り行われた式典。続く講演会では千人を超える聴衆が上野教授の解説に耳を傾けていた。

十一時二十分より「激動期を生きた皇族 朝彦親王」との演題で上野秀治文学部教授が講演。年譜や家系図を紐解きながら朝彦親王の御生涯の軌跡をたどった。

国文学科三年の上河菜々恵さんは「朝彦親王については正直、お名前くらいしか知らなかった。今日の講義で時代の荒波にもまれながらも自らの信念を貫き通した人であることがわかった」と話していた。

倉田山春秋

NHKの来年度の大河ドラマは「平清盛」だという。しばらく前から、中世史の学者が競うように平清盛の「実像」を論じており、多くは、「挫折した先進的政治改革者」としてその姿を描いている。NHKの予告を見る限りでは、大河ドラマも大体その路線のものらしい▼この放送を当て込んでのことであろうか、『平清盛小辞典』という本が最近刊行された。そのオビには『平家物語』には大悪人として描かれている清盛。しかしそれは真実の姿なのか?」とあって、これもまた、近年の歴史学と同じような方向性で清盛をとらえようとしていることが明らかである▼こうした見方にはいささか違和感がある。「清盛は実は悪人ではない」という点に対してではない。「平家物語において大悪人として描かれている」という点に対してである。『平家物語』を素直に読むと、清盛が悪人とはとても思えない。世の中には、もともとの古典を読まずに、声高に議論をする人がいかに多いことか。大学で学問にふれることの功徳の一つに、原資料に拠ってものごとを考える態度を養うということがある。こんなこともその一例になろうか。

全国最年少！鈴木英敬知事が講演

今年四月、三十六歳という若さで当選し、全国最年少知事として名を馳せた鈴木英敬三重県知事が十月六日、本学で講演を行った。演題は〈「日本一幸福を実感できる三重」を目指して〉。集まった学生たちはそのエネルギッシュな語り口にすっかり魅了された様子で、熱心に耳を傾けていた。

講演の冒頭、学生の緊張を解きほぐすため自身の恋愛経験から学んだ人生訓や面接のコツをユーモア交じりに語った鈴木知事。学生は早くも引き込まれた様子で、会場は時に笑いのこぼれる和やかな雰囲気に包まれた。

講演後、花束を贈られ笑顔の鈴木知事

教室内を歩き熱心に語りかける場面も

中盤は本題である県政の話題に。〝新しい豊かさモデルへの挑戦〟として策定された「みえ県民力ビジョン」に沿って話を進めた知事は全国でも数が多い外国人児童や災害への対応など三重県が抱える諸課題について言及した。中でも、全国学力テスト四十五位という順位には学生もショックを受けた様子で、学校環境の整備や保護者の意識改革など今後の教育施策について語る知事の話を真剣な面持ちで聞いていた。

最後に知事は製造業における出荷額が全国九位であることに触れ、「ものづくり県である三重には日本をリードする可能性と資格がある」と力説。そのためにも、学生をはじめ県民が能動的に県政に関わり、自立し行動するアクティブ・シチズンになってほしいと訴えた。

国文学科四年の山下祐加さんは「若くて親しみやすい」と印象を語り、「伝える＝伝わるではないという話に共感した。実体験に基づいたアドバイスを伺うことができ、とても参考になった」と感想を話していた。現代日本社会学科一年の吉田匡君は〝アクティブシチズンたれ〟という言葉が胸に響いた。そうなれるよう、今から取り組んでいきたい」と意気込みを語っていた。

大いに啓発された様子の吉田君（左）と山下さん

お仕事拝見

本学と連携協定を結んでいる伊勢市。このコーナーでは〝地元愛〟を町づくりに活かすスペシャリストである伊勢市役所の方々にこれまでの取組みや伊勢の魅力について語っていただきます。

協働でウォーキングを推進

伊勢市役所健康課
岩佐香課長

健康課（中央保健センター）は伊勢市八日市場町の福祉健康センター内にあり、赤ちゃんから高齢者の方までの健康づくりを担当しています。伊勢市で育った学生の方は、お子さんの頃に一歳六カ月児健康診査や予防接種等で保健センターに来て頂いていることと思います。

伊勢市では、〝元気なまち伊勢市〟を創造する決意をこめて平成十八年七月十一日に「健康文化都市」を宣言し、毎月十一日の「健康の日」には健康に関する講座を開催しています。

学生と一般市民の交流の場ともなっているウォーキング

中でも、適正体重の維持を重点事業とし、「低カロリー・バランス食レシピ」を活用したバランス食の普及やウォーキングの推進に力を入れています。

ウォーキングの推進では教育学部の小木曽一之教授に講師をお願いし、ウォーキング講座の開催や自治会と協働でウォーキング大会を実施しています。教育学部の学生さん達とのウォーキングは講座に参加される市民の皆さんからは大変好評で、楽しく体を動かす時間となっています。

また、市内のウォーキングコースは小木曽教授により距離、歩数、エネルギー消費量、心拍数、自覚的運動強度などの健康増進効果の検証をして頂いています。（「ウォーキングコース」及び「低カロリー・バランス食レシピ」は、伊勢市ホームページをご覧下さい）

適正体重を維持し糖尿病や脳血管疾患などの生活習慣病を予防し、いつまでも健康でいるために、バランスのとれた食生活と運動を習慣にしましょう。

三重は65名！計84名が合格

公立学校教員採用試験合格状況

平成二十三年度実施の公立学校教員採用試験の結果が公表され、全国で現役三十八名が合格、三重県のみの過年度生を含めると八十四名がみごと合格した。

過年度生の活躍について、「現場を知る強みが発揮された」と語るのは教職支援担当の中村正昭部長だ。「講師として実際に子どもたちと接する中で、学ぶことは多い。経験に裏打ちされた言葉は面接官の心に説得力をもって響くのでしょう」。

教職支援担当では現役の学生はもちろん、講師をしながら教員をめざす過年度生に対してもきめ細かな指導を継続している。面接の練習にやって来る卒業生も多く、中村部長は「講師をしながらの受験対策は精神的にきついかもしれないが、決して無駄にはならない。あきらめないで教員となる夢をかなえてほしい」とエールを送る。

また、特筆すべきことに今年度は本学初となる保健体育の教師も誕生した。教育学科・スポーツ健康科学コースを専攻する水谷美咲さんだ。以下に、喜びの声を紹介する。

平成23年度実施　公立学校教員採用試験結果

三重県（２次合格者）

校種・教科等		現役	過年度	皇大計
小学校		18	35	53
中学校	国語	0	6	6
	社会	0	1	1
	保健体育	1	0	1
	英語	0	0	0
高等学校	国語	0	2	2
	地理歴史	0	0	0
	公民	0	0	0
	書道	0	0	0
	保健体育	0	0	0
	英語	0	0	0
	福祉	0	1	1
特別支援学校小学部		0	1	1
合計		19	46	65

※「現役」は本学４年次生、「過年度」は本学卒業生、「皇大計」は本学４年次生及び卒業生の合計。

他都府県市（２次合格者、現役）

県名	人数
小学校	（のべ人数）
神奈川県	3
横浜市	1
川崎市	2
静岡県	1
愛知県	3
滋賀県	2
京都府	1
大阪市	2
和歌山県	1
計	16
中学校	
東京都	1
静岡県	1
大阪市	1
計	3

合格体験記　アイコンタクトを忘れずに！

教育学科　水谷美咲
（三重県・中学校　保健体育）

試験に臨むにあたり何より心がけたのは、相手の目をしっかりと見て話し、聞くこと。「目は口ほどにものを言う」と諺にあるように、アイコンタクトや顔きは自分の思いや熱意を伝え、また、あなたのことを理解したいという無言のメッセージを送っていると思います。わたしの場合、長所である〝大きい声と笑顔〟もプラスして、元気良く面接や実技に取り組んだことも効を奏したのかもしれません。

普段の生活態度も自ずと変わりました。電車で高齢者の方に席を譲ったり道端のゴミを拾ったり…教師をめざすにふさわしい人間になるには内面を磨くことも大切だと思います。

学力試験対策についてはやる気を引き出すために自分が得意な分野、簡単な問題から取り掛かるようにしました。正解率が高いと嬉しくなって次に進もうという気になるんです。

これから教員をめざすみなさんも自分に合った勉強法、作戦を練って夢を実現してください。

茶道を学び、日本の心を知る

「茶道文化検定」を初開催

深い精神と哲学のもと、長い年月をかけて受け継がれてきた日本を代表する伝統文化、茶道。その知識や心を身に付けるために、流儀の垣根を超えた「茶道文化検定」（主催／財団法人今日庵）が毎年実施されるようになって四年目となった今年、十月二十三日に本学でも初めて同検定を開催した。茶の心や歴史、茶会・茶事、茶道具、茶室・露地など幅広い内容のペーパーテストに、本学の学生二十名と一般の社会人二十六名、計四十六名が臨んだ。

本学での検定実施をきっかけに、三重の茶道人口のさらなる増加が期待される

茶道の普及は、実技のお点前が中心。しかし、なぜそのようにするのかという知識や心をきちんと学び、「道」「学」「実」の三つが一体になって初めて良いお茶が点てられる。検定は、茶道の文化に関する基礎的な知識を問う四級から高度な知識を有する一級まであり、伊勢では四級から二級までの検定が行われた。

これまで同検定を受けるには、三重県からは名古屋まで出なければならなかったが、伊勢の地でも催されることにより、今後多くの学生が茶道に親しむことが期待されている。

教育学会主催 さよなら一号館記念懇談会を開催

昭和三十七年の本学再興時に建てられ、およそ五十年の歳月を刻んだ一号館(旧本館)。耐震上の問題などから取り壊しが決定されたことに先立ち、十月二十三日、建物の公開と教育学会主催による「さよなら一号館記念懇談会」が催された。当日は館内に入ることができる最後の機会とあって、思い出を懐かしむ数多くの卒業生が参加した。

思い出話に花咲かせ

再興時の最初の建物として建設された一号館(旧本館)。教育学科が創設されてからは主にその学舎だったことから、午前十一時からの自由見学には同学科の卒業生が友人や家族とともに訪れ、教室や研究室を懐かしそうに見て回った。とくに、昭和四十年度から昨年度までの卒業アルバムを展示した一室では熱心に写真に見入る姿が多く見られ、同級生や先輩、先生方を見つけては思い出話に花を咲かせたりしていた。

熱心に卒業アルバムを見る卒業生たち

午後一時からは六号館で「さよなら一号館記念懇談会」を開催。まず、深草正博教育学部長が一号館の歴史や取り壊しの経緯などを語り挨拶を述べると、続いて再興時や教育学科の草創期を知る宗林正人先生、西山嘉代子先生が当時を振り返り、印象に残る出来事や逸話を披露した。

今も心に残る恩師の言葉

宗林先生が赴任した昭和四十一年は、まだ倉田山の一角を開いて造成した赤土がそのまま残っていたという。先生は樹勢が早い松を植樹し、卒業する二期生の四年生たちも記念に植えたいと申し出て、ソメイヨシノの苗を十本、学生自身が穴を掘って植樹。卒業後は先生がその世話をされたり、もっと緑豊かにするために神宮からいただいたケヤキの苗を街路沿いに植えたりした話などを紹介された。また教育学科ができてからは、初めて学生が教育実習をする際、地元に受け入れをお願いしても教職員組合の反対が強く、何度も足を運んでようやく理解を得た苦労話なども語られた。

卒業生たちが自由見学に訪れた1号館

西山先生はご自身の歩みとともに、学生たちの卒業記念ミュージカルにまつわる出来事を述懐。学生たちが公演の費用を捻出するためにバイトをしながら夜遅くまで練習や準備をするなど、したいことをする輝いた顔を見るのがとても楽しみだったと語られた。また、宗林先生のお話にも登場した桜の花も毎年よく眺めていたと語り、最後に「さくらさくら」を独唱。会場全体が穏やかな温もりに包まれた。

現在教育界などで活躍している卒業生も次々に発言。学生時代に寮での飲酒が問題になったとき、宗林先生から「これからに期待する」と言われて救われた話や、森下千瑞先生が最初の授業で「みなさんはこの学校に来たのだから、まず伊勢を好きになりなさい。そしてこの学校を好きになりなさい。そうしたら四年間、すごく良い毎日を過ごすことができると思うよ」との言葉によって意識が変わり、本当にその通りになった、といったエピソードが披露され、一人ひとりが一号館での思い出とわが師の恩を胸に刻んだ。

いろんな苦労話や笑い話が和やかに交わされた記念懇談会

厳かに行われた安全祈願祭

十一月四日には一号館の無事の解体を願う安全祈願祭が執り行われ、工事関係者や学校関係者など計二十二名が参列。厳粛な雰囲気の中、十二月から始まる解体工事が滞りなく行われるよう祈念された。

実習教育を強化 「実習支援担当」を設置

本学における人材養成の目的を達成するために、学外での実習は欠かせないものである。その点において、今年四月の名張学舎・伊勢学舎統合に伴う組織改革によって実習(一部を除く)を一元的に担当する「実習支援担当」が設置されたことは、実習教育を推進する上で大きな役割を果たすことが期待されている。

きめ細かな指導で定評のある本学だが、実習にあたっては三段階のステップを設けている。まずは〈事前指導〉。実習における目的・学習内容を学生にあらかじめ理解させ、講義・演習の授業を通して修得した知識・技術を充分活かせるよう実習生としての姿勢を指導する。次は〈実習〉。実習によって違いはあるものの、基本は本学教員が実習先を訪問し、指導担当者と三者面談を行うなど、学生・実習先・教員の三者間において、より効果的な内容となるよう取りはからう。最後は〈事後指導〉。実習を通して学んだことを学生に再確認してもらい、自分自身の内面的理解・自己覚知を深めることによって将来の進路につながるよう仕上げていく。

今年度の実習は一部を残してほぼ終了。訪問指導報告書を見る限りでは、本学の学生は礼儀正しく、実習に対する姿勢も積極的で実習先からは概ね良い評価を頂いている。しかし、一方では実習先からの意見・要望が年々増えていることも事実だ。また、法改正に伴い、実習のあり方も変化している。実習支援担当部署としては教員との連携を強化し、より一層実習教育に力を注いでいく必要があると考えている。

実習支援担当で担当する実習と今年度の履修者数は左表のとおり。

今年度の実習と履修者数

教育実習	幼稚園	60
	小学校	211
	中学校	196
	高等学校	15
	特別支援学校	6
教育観察実習	小学校	11
	中学校	1
介護等体験実習		336
保育所実習Ⅰ		69
保育所実習Ⅱ		59
児童福祉施設実習		62
社会福祉援助技術現場実習		38
精神保健福祉援助実習		5
介護福祉実習Ⅱ		2
介護福祉実習Ⅲ		9
インターンシップ実習Ⅱ		7
産業社会実習(インターンシップ研修)		42

現代日本塾を開催 第9・10・12回

今の現代日本に最も必要な人材を育成しようと、現代日本社会学部ではさまざまな分野の第一線で活躍する方々を講師に招いて定期的に「現代日本塾」を開催している。今回は第9回・10回・12回の模様を紹介する。

第九回 これからの時代の公務員に求められる志

講師●中野剛志氏

「脱・官僚」を鵜呑みにするな

五月十二日、経済産業省の現役官僚で京都大学准教授でもある中野剛志氏を講師に、第九回「現代日本塾」が開催された。

中野氏は自身の経験と研究を踏まえ、日本は他の欧米諸国と比べて公務員の数が少なく「大きな政府」には程遠いことや、民主主義成功のためにこそ強力で自律的な官僚組織が必要等々についてユーモアを交え解説。マスコミなどが喧伝する「脱・官僚」キャンペーンを鵜呑みにすることの危険性を訴えた。公務員を目指す多くの学生たちには、公務員として生きることの勇気と誇りと喜びを教えていただいた。

第十回 通らぬ道を選ぶ時代がきた

講師●モンテ・カセム氏

アジア太平洋が世界発展を導く

六月十六日に開催された第十回「現代日本塾」の講師は立命館大学・副総長のモンテ・カセム氏。二年前まで立命館アジア太平洋大学(APU)の第二代学長を務められた経験に基づき、「通らぬ道を選ぶ時代がきた―アジア太平洋学とアジア太平洋大学―」と題し講演した。

講演の中で氏は、今後世界の発展をアジア太平洋が誘導する時代になると力説。優れた技術や歴史・文化を持ち、各国に惜しみない開発協力をしてきた日本は地球規模の問題を解決し世界の平和と繁栄に貢献しうる存在だと語り、学生は熱心に耳を傾けていた。

第十二回 世界の宗教と民族の共生について

講師●天江喜七郎氏

宗教知らずして国際人といえず

十月十三日、公益財団法人・国立京都会館長の天江喜七郎氏を講師に迎え、第十二回「現代日本塾」が開催された。

天江氏は一橋大学をご卒業後、外務省に入省。在ソ連(現ロシア)公使をはじめ、中近東アフリカ局長、シリア大使などを歴任された。

大学では合気道の稽古に励まれ、英国留学にて「武士道」と「騎士道」に通ずる「忠誠心・高潔な人格」を感得されたとの事。講演では外交官としてのご経験を踏まえ、世界のさまざまな宗教に対する理解の大切さやその信仰の特徴、共存共栄と平和に向けての心構え、日本の神道の尊さ、「一盌からピースフルネス」とするお茶の心等を教えていただいた。

「宗教を知らずして国際人といえず」との言葉に頷く学生も多く、世界に羽ばたいてゆくべき若者たちに大いなる視野と叡智の一端を授けていただいた。

学生とのディスカッション風景

クラブ活動は好成績ラッシュ！

大学

●駅伝競走部

石坂健太君（教育２年）が全日本大学駅伝に初出場

11月６日に開催された第43回全日本大学駅伝に教育学科２年の石坂健太君が東海学生連盟選抜チームのメンバーとして初出場した。石坂君が走った３区は川越町から四日市へと駆ける9.5キロ。区間19位、２人を抜く健闘をみせた石坂君は「沿道から『がんばれ～』とか『皇學館の学生さんだ』という声が聞こえ、地元の声援を受けて走れたことが嬉しかった」と喜びを語った。補欠に選ばれたコミュニケーション学科１年の濱地久史君は「この経験を活かして、まずは12月に開かれる東海学生駅伝で３位以内をめざしたい」と意欲満々。同じく補欠に選出されキャプテンでもある教育学科３年の太田昌希君は「男子部員22名が同じ合宿所に住んでおり、まさに同じ釜の飯を食う仲間。この絆を大切にして来年は必ず全日本大学駅伝に出場します」と決意をにじませていた。

右から順に太田君、石坂君、濱地君。３人とも「部員はみな友達でありライバル」と話し、切磋琢磨しながら日々練習をこなしている。

よさこい部「雅」●

津まつりで「高知県知事賞」を受賞

よさこい部「雅」が10月８・９日に行われた津まつりで「高知県知事賞」を受賞した。77の参加チームのうち、ファイナルに進むのは10チーム。その中からただ１つのチームに贈られる栄誉ある賞だ。「うちのメンバーは102人。ウェーブなど大人数だからこそ映える動きを取り入れ、チームワークの良さをアピールしました」と語るのは、代表を務める教育学科３年の福西俊宏君。振付や衣装、曲のイメージなどもすべて自分たちで考え、コツコツ練習を重ねてきたのだという。

毎年、リーダーの個性がいかんなく発揮される同部。良い形でバトンタッチできることとなりホッとした様子の福西君は、「創設以来の合言葉〈笑顔でよろしく!〉を大切に、みんなで協力していくという根っこの部分を守り受け継いでほしい」と来年に向け思いを託していた。

「天岩戸」をイメージした衣装とペインティング

踊ることを楽しみ、全力を出し切るのが「雅」のモットー。エネルギッシュな動きと満面の笑顔が印象的だ。

高校

囲碁将棋部●

全国高校囲碁選手権大会で澤山隼也君（３年）が一回戦突破

高校生の囲碁日本一を決める囲碁界の甲子園「全国高校囲碁選手権大会」に３年の澤山隼也君が三重県代表として出場する快挙を成し遂げた。惜しくも２回戦で敗れたものの、初出場ながら１回戦で愛媛県代表に勝利するなど大健闘。囲碁を始めたのは中学からとまだ経験が浅いにもかかわらず、めきめきと頭角を現し現在はアマ五段の澤山君を「冷静で筋がよく、勝負どころがわかっている」と顧問の西井栄治先生は評する。囲碁の魅力について「同じ対局が存在しない、一期一会なところ」と語る澤山君。卒業後も囲碁部のある大学へ進みたいと言い、「囲碁部は実践中心の練習なので面白い。囲碁の楽しさをもっとたくさんの人に知ってほしい」と話していた。

試合前はプロの棋譜を見たりネット対局したりと、１日３時間ほど練習するそうだ

●銃剣道部 男子

東海予選で圧勝し山口国体に出場

皇學館高校銃剣道部が国体予選で静岡、愛知、岐阜に圧勝！ 東海ブロック代表として、10月７・８・９日に開催された第66回国民体育大会銃剣道競技（山口国体）への出場を果たした。部員の全員が高校から銃剣道を始めた初心者。短期間のうちに国体へ出場するほど上達する秘訣は中島英哉監督が行う独自の訓練法だ。面を着けずに練習することでまさに〈真剣勝負〉となり、集中力や技術が養われるのだという。

国体では１回戦で昨年度優勝の千葉とあたり敗れはしたものの、一対二と惜しい内容。大将を務めた３年生の西飯勝哉君は「結果は残念だったが練習する中で和の大切さを学ぶなど人として成長できた」と語り、「来年度の岐阜国体での入賞に期待しています」と後輩にエールをおくった。２年生の長野優斗君は「貴重な経験が積めた」、同笹山尊君は「試合の運び方や攻め方などをさらに磨き、来年につなげたい」と話し、意気込みをみせた。

国体出場は今回で６回目。チーム一丸で来年の国体への連続出場を狙う。

中学

●陸上部

三重Jrオリンピック走幅跳で五島美空さん（２年）が優勝

２年生の五島美空さんが９月19日に実施された三重県ジュニアオリンピック陸上競技選手権大会「中学校女子Ｂ　走幅跳」で自己ベストの５m06をマークし優勝した。「大きい大会ほど燃える」と精神力の強さをみせた五島さん。顧問の吉田康人先生も「プレッシャーのかかる後半ほど力を発揮する」と期待を寄せる。

座右の銘は「努力は人を裏切らない」。家では100回の腹筋をノルマとし、足首の靭帯を痛めて１カ月練習できなかった間もイメージトレーニングを怠らないなど根っからの頑張り屋でもある。今後の活躍が楽しみだ。

自己ベストを更新が目標と話す五島さん

●柔道部 女子

五十子姉妹が大活躍！鈴鹿高専杯で団体準優勝

10月８日に行われた鈴鹿高専杯争奪中学校柔道大会で女子柔道部が団体準優勝に輝いた。活躍したのは五十子姉妹。姉である３年の千紗さんは大将、１年生の妹・水音さんは中堅としてチームに貢献した。今回の結果について、千紗さんは「大学の先生に頼み込んで女子部と一緒に練習をさせていただくなど、厳しい環境に身を置いたことで力が付いた」と分析。体力や技の差を埋めるために何をしなければいけないのか、意識が変わったという。

171センチと身長が高い千紗さんは大技に、152センチと小柄な水音さんは見せ場をつくるためにも一本技にこだわる。どちらにしても重要なのは基礎体力。腹筋や走り込み、腕立て、背筋を鍛えるため筋トレにひたすら取り組む毎日だ。姉妹で切磋琢磨しながら県大会での優勝をめざす。

写真大／「お互い負けたくない」と良きライバル同士の五十子姉妹
写真小／「日々の練習あるのみ!」と力強く語る妹の水音さん

学生編集ページ　学生記者募集！……興味のある人は企画部まで！　KODAISM

祭にクラブ活動に 皇學館生に実りの秋

秋といえば祭にスポーツ、文化活動とイベントがめじろおし。ここ、倉田山でも倉陵祭をはじめ皇高祭、皇中祭と多彩な催しが開かれ、大いに賑わった。また、クラブやサークル活動も各大会で好成績を多く残すなど実りの季節を迎え、学生たちは一層身を入れて取り組んでいるようだ。今回は各祭典の模様、喜びの声をご紹介する。

第50回 倉陵祭　10/28㊎・29㊏・30㊐

樽神輿は４年コミがダブル受賞！

順位の発表ごとに歓声がわく樽神輿コンテスト

中央広場の屋外ステージではミスコンや借り人競走などが行われ盛り上がった

卒業を控え、本当にいい思い出になったと語る森川君と森さん

社会福祉学科の学生にとっては伊勢で迎えるはじめての学祭となった

50回目という記念すべき倉陵祭のテーマは「歩～あゆみ」。実行委員長である神道学科３年の渡邊正守君は「名張学舎と伊勢学舎が統合して初めて開催される倉陵祭なので、〝共に新しい歴史を歩んでいこう〟という思いを込めました」と語る。また、東日本大震災など災害が続いた年だけに、祭を盛り上げることで少しでも〈元気〉を発信できれば、とも。募金活動も行い、収益金は台風12号の被災者支援にあてられるという。

毎年、多彩な催しが企画される倉陵祭。初日は厳かな祭典より始まり、「トイレの神様」で大ブレイクした植村花菜さんのアーティストライブなどが開催された。伝統の樽神輿ではコミュニケーション学科４年生のチームが優勝、実行委員特別賞とダブル受賞する快挙！ メンバーを率いてきた森川英亜君と森みどりさんは「コミュニケーションこそ、地球を一人ひとりが持っている愛でつなげる方法であることを表現したかった」と語り、「この樽神輿は４年間で学んだことの集大成。それが認められて本当に嬉しい」と涙まじりに喜びを爆発させた。そのほか、２日目には学会研究発表会、３日目にはお茶会や藤原正彦氏による講演会が行われ、後夜祭で感動のフィナーレを迎えた。

今年も若いエネルギーが炸裂し、盛り上がりを見せた倉陵祭。創立130周年・再興50周年という佳節を迎える来年はどのようなパワーを見せてくれるのか、楽しみだ。

実行委員長の渡邊君

第49回 皇高祭　9/15㊍・16㊎

初の試み、演劇鑑賞で盛り上がる

９月15日、16日と２日間にわたり行われた第49回皇高祭。初日は観光文化会館で本学園の伝統行事である祭典が執り行われた後、吹奏楽部の迫力ある演奏と劇団員による舞台「ヘレン・ケラー」と続き、中身の濃い１日となった。とくに演劇鑑賞は今回が初の試みだったので生徒がどのような反応を見せるのか心配されたが、喜怒哀楽、そして生きるということを考えさせられる深みのある芝居に、生徒はスッーと吸い込まれるように魅入っていた。

２日目の目玉はクラス展示と有志によるパフォーマンス。模擬店はメイド服を着て接客する店なども登場し、来場者の目を楽しませていた。パフォーマンスでは恒例の野球部員による可愛いダンスやバンドで盛り上がった。

総務副委員長を務める２年６組の江川真林さんは「皇高祭を開催するにあたり、内容をクラス全員で話し合ってきました。意見が出ずに大変な時もありましたが、みんなで話し合い決めていくという過程が大事なのだと思いました」と語った。続けて「頑張った分だけ自分の心の中に思い出として残り、達成感を味わうこともできた」と満足げに話していた。

熱烈な吹奏楽部の発表

第32回 皇中祭　11/5㊏・6㊐

みんなで創った最高の舞台

クラス展示

11月５日、６日の両日、皇中祭が開催された。大学記念講堂にて厳粛な雰囲気の中、祭典が執り行われ、その後の開会式で副委員長が「日々の学校生活で培ったものが発揮できるよう最高の舞台を創り上げましょう」と宣言すると、生徒たちの気持ちも最高潮に。その言葉通り、どのクラスも全力を出し切った素晴らしい内容の２日間となった。

初日のメインは合唱コンクールだ。舞台袖では緊張をほぐそうと「みんな笑顔で頑張ろう、大丈夫だよ!」と声を掛け合う一幕も。だが、緞帳が上がると誰もが吹っ切れた様子で、最高の歌声を披露していた。

２日目のクラス展示では廊下に呼び込みの声が響き、教室では来て頂いたお客様をおもてなしする姿がたくさん見られた。各クラスとも工夫を凝らしており、折り鶴を３万５千羽用いた「折り鶴アート」や地域別にゲームとクイズに挑戦する「全国サイコロツアー」、「タイムスリップで楽しもう!」では江戸時代をテーマにしたミニゲームなど様々な内容が用意された。午後にはCOZY＆MAIさんのマジックショーを開催。鳩が飛び出すなど楽しい演出に会場のあちこちから歓声が上がっていた。

合唱コンクール・展示共に優勝は３年Ａ組、準優勝は３年Ｂ組。発表の瞬間立ち上がり、クラスの仲間と抱き合い喜びを分かち合う場面が見られた。例年以上に生徒が盛り上がり充実した日々を過ごせたことを実感できた皇中祭だった。

合唱コンクールで貫禄をみせた３年生

友好深めた二週間

第十回 オーストラリア語学研修

第十回オーストラリア語学研修旅行が二週間（七月二十五日～八月七日）の日程で今年も実施された。堅田憲二先生を団長とする一行十四名（生徒十一名、随行教員三名）は七月二十五日、関西国際空港を出発。シドニーに到着し、半日市内を観光した。翌二十七日、メルボルン近郊にある姉妹校ローズヒル・セカンダリー・カレッジに到着した。生徒達は期待と不安を抱えながらホストファミリーと対面し、それぞれの家庭へと向かった。

翌二十八日からは、語学研修プログラムに参加。ホスト生と共に授業への参加やESLによる特別授業の受講、また校外研修など現地での生活を楽しんだ。

研修の最終日である八月五日の夜には姉妹校主催のフェアウェルパーティが開かれた。ゲームや踊りでお世話になった家族達に感謝の気持ちを表した。また、学校側から一人ずつプログラムの修了証書を受け取った。最後に、共に過ごした十日余りの時間を振り返り、感謝の思いと将来の再会を約束し、更に友好を深めた。

随行教員　葛山夕華

短い期間ながら密度の濃い時間を過ごし、友情を育んだ２週間

ローズヒル校から十名が来校

茶道など日本文化を体験

本校の姉妹校であるオーストラリアのローズヒル・セカンダリー・カレッジから語学研修生十名が来校。九月二日から六日まで本校のホスト生宅に滞在しながら、いろんな行事や特別授業を通して交流を育んだ。

前半は台風十二号の影響で内宮参拝やおかげ横丁散策などが中止になったが、その間ホスト生と過ごし、記念館「日月庵」で催された茶道体験学習では仲良くなったホスト生からお点前を教わりながら抹茶や和菓子を楽しんだ。ホスト生たちも意思をはっきりと伝える同校生たちから、大きな刺激を受けていた。

抹茶の味は、「ヴィター」、「ベリーストロング!」

ローズヒル校生を迎えて

二年九組　南端　拳

九月三日の土曜日は暴風警報発令で遠出をするわけにもいかず、父が経営する真珠の会社を案内しました。祖父の友人がオーストラリアで南洋真珠にかかわる会社を興した最初の人と聞いたジョーは真珠に興味を持ったようで、その後、家族へのプレゼント用と自分用にアクセサリー作りを楽しみました。夜には僕の幼馴染四人が泊まりに来て、皆で大きな銭湯に行きました。

日曜日はジョーのリクエストに応えてゲームセンターでいろいろなゲームを楽しみ、プリクラ、カラオケなどワイワイ言いながら遊びました。

月曜日は定刻に登校し、「茶道体験」・「書道体験」や柔道部・弓道部などのクラブ活動を見学したり体験したりして楽しく過ごしました。夕食時はフェアウエルパーティに参加し、最後の夜なので家で花火をして大騒ぎしました。

最終日は皆が早起きし快晴だったので、学校に行く前に猿田彦神社を訪れました。

絵馬に興味を持ったジョーに「将来への夢を約束して神様に聞いてもらう」と何とか英語で説明し、二人はそれぞれの絵馬に願いをこめて納め、神社に参拝しました。朝の神社特有の清々しい空気や厳粛さを感じてもらえたとしたら嬉しく思います。

初めての書道に興味津々の様子で取り組んだローズヒルの学生たち

皇高NEWS

「ありがとう」の気持ちを綴る

家庭に感謝する日の行事

教育勅語が明治二十三年十月三十日に発布されたことから、「家庭に感謝する日」として毎年その日に高等学校・中学校で一、二限目に謹書をしている。今年は当日が日曜日ということから二十九日に行われた。各自筆ペンを準備し真剣な眼差しで丁寧に取り組んでいた。その他、勅語に「父母二孝ニ」とあるように家庭に感謝する日の作文を提出した。改めて普段なかなか言えない「ありがとう」の気持ちを作文用紙に書き綴ってあり、優しさ溢れる言葉に心が温かくなった。

集中して謹書を行う生徒たち

皇中NEWS

三年B組が総合優勝

第三十二回 体育大会

九月十八日に体育大会が開催された。心配されていた天候にも恵まれ、青空の下で活躍する生徒たちの姿を見ることができた。

例年通り入場行進からのスタート。クラスで足並みを揃えようと練習してきた成果をどのクラスも発揮できた。競技が始まると円陣が組まれ大声で気合を入れる光景が。応援生徒の声援もグラウンドに響き渡った。チャレンジャー・ザ・ギネス（大縄跳び）や綱引きのように大人数で参加する競技になると応援人数が少なくなる中、クラス旗を持って全力で応援している姿が印象的だった。その成果もあってか、綱引きでは一年生が三年生に勝利するなど奮闘していた。クラス全員と担任で組む、その名も〈クラス全員＋一脚〉は全クラスが無事にゴールすることができた。勢い止まらず準備されていたゴールマットに助けられストップするとタイムが発表され、歓声が沸いた。ニコニコボールでは例年一年生が重たいラケットとボールに苦戦するが今年もトップと大きく差を広げられ、その焦りもあり上手く進めなかった。するとゴールし終えた選手やクラスの皆が「頑張れ、あと少しだよ」と周りに駆けつけ声援を送っていた。そんな生徒たちの姿を見て心が温かくなった。最後の競技、高得点が獲得できる二十人リレーでも順位の入れ替わりの度に待機選手・応援生徒共に大興奮。結果は総合優勝三年B組、準優勝二年A組となり、今年の体育大会が終了した。

クラス全員＋１脚

ニコニコボール

男子４×100mR

のべ一三六名の児童が参加

平成二十三年度 学校説明会

十月二十三日、本年度第三回目の小学生対象学校説明会が行われた。学校・入試説明の他に、各回でそれぞれ違った体験学習も準備した。

第一回（七月二日）では本校中学生の授業見学。内容は中学校範囲なので小学生には少々難易度が高かったが、本校生徒が授業を受けている姿を直接見てもらうことが出来た。第二回（九月四日）では小学生対象に中学校教員による授業体験（国語・数学・英語）。中学校範囲のことを小学生も理解できるようにと教員が工夫を凝らし、楽しんで授業に参加してもらうことが出来た。第二回が台風の影響で悪天候だったため第三回（十月二十三日）が実施されることになり、小学六年生を対象に入試対策授業（国語・算数）が行われた。国語では接続詞の解法を、算数では速さの問題に取り組んだ。この他に夏休みには三重私立中学校展（中日新聞主催）にも参加させて頂き、今年度あわせて説明会参加児童数はのべ一三六名となった。

参加頂いた皆様、ありがとうございました。

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業 寄付者芳名

十月三十一日現在の募金状況は次の通りです。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

同窓会会員

三重県

一万五千円　山路亜有美様
一万円　坂下　淳子様
一万円　福永　恭平様

奈良県

三万円　藤田　善弘様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。■同窓会会員／１名

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況

平成23年10月31日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗　教　界	3	450,000	450,000
企　　業	42	4,240,000	4,190,000
一　　般（旧教職員・篤志家等）	16	535,000	535,000
同窓会会員	170	7,135,000	7,135,000
後援会賛助会員	67	1,140,000	1,140,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合　　計	423	17,185,000	17,085,000

谷省吾元学長の葬儀しめやかに

およそ百六十名が参列

十一月五日に九十歳で逝去した元学長、谷省吾名誉教授の葬儀が同月十日、伊勢市岡本の祖霊社でしめやかに執り行われた。当日は、神社界をはじめ学校関係者などおよそ百六十名が参列。本学発展のために力を尽くされた故人の遺徳をしのんだ。

神道学者でもあった谷元学長は神道学および垂加神道・鈴木重胤の研究で知られる。東京帝国大学文学部国史学科を卒業し、昭和三十七年に本学の教授に就任。昭和六十三年より学長を務め、平成六年に退職された後は名誉教授として本学の発展に尽力してこられた。教育界における長年のご活躍が認められ、同年には勲三等瑞宝章を受章されている。

参列者はおよそ百六十人。弔辞に立った佐古一洌理事長は「おごそかにしてしたわしき」と温厚誠実であった故人の人柄を偲び、自身の学生時代を振り返りながら「指導教官として殊の外その薫陶を頂戴しました。先生に教えによってはじめて真の日本人として覚醒し、神の道にめざめた思いが致します」と弔意を述べた。そして、清水潔学長、日本学協会を代表して所功京都産業大学教授、伴五十嗣郎前学長よりそれぞれ故人の思い出とともにお別れの言葉が伝えられると、最後に遺族を代表して十時和孝氏がご挨拶。その後、参列者全員が玉串を捧げ拝礼し、葬儀は終了した。

略歴

昭和16年	大阪府立浪速高等学校卒業
昭和18年	東京帝国大学文学部国史学科卒業
昭和20年	海軍中尉
昭和36年	帝塚山短期大学教授
昭和37年	皇學館大学教授
昭和42年	皇學館大学図書館長
昭和48年	皇學館大学学生部長
昭和54年	皇學館大学神道研究所長
昭和60年	皇學館大学文学部長
昭和63年	皇學館大学学長
平成6年	皇學館大学退職、皇學館大学名誉教授、勲三等瑞宝章

【主要著書】『神道原論』(皇學館大学出版部)、『石のひゞき』(日本教育協議会出版部)他多数

弔辞

皇學館大学名誉教授・元学長・谷　省吾先生の御霊前に、謹んで申し上げます。

先生は大正十年九月廿一日ご生誕。大阪浪速高校を経て、戦火厳しき昭和十八年東京帝国大学文学部国史学科をご卒業。たゞちに海軍に入隊、昭和二十年海軍中尉として和歌山にて終戦を迎えられました。

戦後は胸の御病の為、長期療養をなされ、回復後は奈良帝塚山学院で教鞭をとられ、昭和三十七年にわが皇學館大学再興と同時に教授として赴任なさいました。

爾来数々の要職を経て大学々長をおつとめの後、退官されます迄三十有余年の長きに亘り、学生への教育又国学者鈴木重胤翁を中心に神道の学問研究に心血をそゝぎ、数多くの優れた論文・著書をものせられました。

そして、それまでの教育界のご功績により勲三等瑞宝章受章の栄にも浴され、御退職後悠々自適ながら学道に研鑽、その真摯な尊いお姿は学者の鑑とも申しても過言ではありません。

先生は、平泉澄先生門下少壮俊英のお一人として本大学再興にご尽力ご指導いたゞきましたが、私共がこうして現在あるのは偏に先生をはじめ、当時お教えを賜った諸先生のお陰であると、只管に感謝して止まない次第であります。又学長ご在任の期間、本学を盤石不動の態勢にお導き下さいました御功業は、皆人の知り慕うところでもあります。

私事に亘り恐縮ですが、先生は私の学生時代の指導教官として、殊の外その薫陶を頂戴しました。不肖の教え子でありましたが、先生のお教えを限りなく水を吸い込む海綿となって受け入れ、若い日はじめて真の日本人として覚醒し、神の道にめざめた思いが致します。特に大学院の頃親しくお宅で一人講義を拝聴し、終わった後は奥様の美味しいお手料理の御馳走に預かりましたことは、わが生涯の宝として胸に深く残っております。

「おごそかにしてしたわしき」―先生の慈顔温容のお姿は、我国古来の〝つゝしみ〟から泉の如くこんこんと湧き出る雰囲気より醸し出されるものでありました。又そのお言葉の端々(はしはし)には、我々日本人の心の琴線に触れざるはなき全身にしみわたる味わい深い〝真言〟でありました。

皇學館大学は申す迄もなく「敬神崇祖・尊皇愛国」を柱と致しております。その教育を歴史・文学に、経済・社会の中に活用する者を一人でも多く輩出せしめることが必要であります。すなわち皇學館大学は、真の日本人教育の聖域たるべきを保持していかねばなりません。

先生の偉大なお教えを身に体し、菲才微力ながら、今後を歩んでまいる覚悟であります。

今日迄の限りなき御鴻恩を万謝し、大き御魂の安らかならん事を念じつゝ、お別れの言葉とさせていただきます。

本当に有難うございました。

平成二十三年十一月十日

学校法人皇學館理事長　佐古　一洌

創立一三〇周年・再興五十周年記念事業　寄付者芳名

十月三十一日現在の募金状況は次の通りです。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金進捗状況

平成23年10月31日現在

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	777,197,000	767,107,000
館友	728	79,864,000	77,619,000
篤志家	49	31,990,000	31,820,000
萼の会	1,888	101,071,000	101,071,000
企業	104	62,635,000	61,345,000
本法人関係	260	60,092,000	58,647,000
合計	3,663	1,112,849,000	1,097,609,000

館友

静岡県
五万円　鈴木　和昭様

篤志・その他

長野県
五万円　田中　悠樹様

萼の会(保護者の会)

神道学科
三万円　橋本　敬様
三万円　武曽　素行様

国史学科
三万円　五藤　嘉一様
三万円　御田　良知様
三万円　宮本　睦様

コミュニケーション学科
三万円　中北　光正様

社会福祉学科
三万円　西井　勉様
三万円　堀　勝則様

教育学科
三万円　塩川　仁様
三万円　前川　為光様
三万円　牧野　幸治様
三万円　三島　成人様

本法人関係

二十五万円　宮川　泰夫様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。■萼の会／7名　■篤志家／1名

平成二十三年度　萼の会地区別教育懇談会

八会場、のべ二二六人が参加

萼の会地区別教育懇談会が八月二十七日・二十八日、九月三日・四日の計四日間、静岡(浜松市)会場を初めとして三重(四日市市・津市・伊勢市・名張市)、愛知(名古屋市)、兵庫(神戸市)、福岡(福岡市)の八会場で開催された。

同会は学業や学生生活、就職等、学生に関する様々な問題について会員である保護者と教職員が話し合い、意思疎通を図る場である。同時に、大学を取り巻く昨今の状況について大学側から報告する情報提供の機会でもある。また、一部の会場では地元館友会(卒業生の会)の協力を頂き、地元における就職等情報収集の場を設けさせていただいた。

各地区では式次第にしたがい会長挨拶、学長挨拶、大学現況報告を行ったほか、館友会との合同懇親会(福岡会場のみ)や卒業生との懇談会(津会場のみ)、ミニ講義(四日市・伊勢・愛知会場のみ)等、個々に実施された催しもあった。

出席していただいた方々には大学及び各学部の状況や教育指導方針をご理解頂くと共に、履修及び成績の資料をもとに個別に熱心な懇談が行われ、将来に向けた教育等について深く認識していただけたものと考えている。

同会は大学を理解していただくと共に、保護者の方々から直接ご意見を伺える極めて貴重な機会である。次回はさらに多くの会員の方々に参加していただき、より一層充実した会になるよう盛り上げていきたい。

全体会での学長挨拶

各学科の教員との個別懇談会

教職員人事

採用

平成23年10月1日付

皇學館大学(兼法人本部)事務局企画部調査役　木村　成吾

【出身地・経歴等】愛媛県出身、駿台予備校勤務を経て平成二十三年三月まで人間環境大学に奉職。

【一言メッセージ】座右の銘は「人生は楽しく、愉快なことが起こる」。創立、再興にご苦労された先人に思いを馳せ、今後の発展に微力を毎す所存です。

英国・ケント大学●夏季短期留学

二十三人の遣唐使(ケント)を引率して

文学部コミュニケーション学科教授　池田久代

国際交流委員会企画による第一回英国・ケント大学夏季短期留学が八月五日から八月三十一日までの二十六日間、実施された。八月六日にロンドンで発生した暴動が地方へ飛び火するなど不安な幕開けとなったが、約一カ月の英国研修は大過なく無事終了。以下に学生を引率した池田久代教授の報告と学生二名の体験記を紹介する。

【8月24日】「貴婦人の城」と呼ばれるリーズ城で

本学とケント大学の大学間協定締結に伴い、その交流の第一弾として、英国短期留学としては過去最多の二十三名が参加した。思い思いの目的と志を抱いて一路英国へ、英国国教会の聖地、英国史の古層を形成するカンタベリーの地に赴いた。英語研修への思いは様々であったであろうが、それぞれが忘れがたい生涯の一こまを心に刻んだことだろう。「遣唐(ケント)使」とは共に引率した櫻井治男国際交流委員長が思わず口にされたチーム名であるが、二十三名の学生がこの体験を通して日本人としての自己を学び、アジアを越えて世界へと飛翔して行く人材に育っていくことを願ってやまない。七世紀の唐に赴いた志熱き若者たちのように。日常性を離れた旅の時間は、圧縮された深い体験を与えるものだ。

直接体験こそ短期留学の真骨頂

さて、課外や休日に計画されたケント州内やロンドンへの学外研修（小旅行）、ヨーロッパやアジアの留学生との交流の夕べ、さらに本学が主催し、開催した「茶の湯」の会（日本文化の発信）など、盛りだくさんの企画の中で、ケント大学英語・世界言語センター（CEWL）における七十五時間の英語研修はたいへん充実したプログラムであった。

学生は約十名からなる二クラスに分かれて、カンドック（女性）、デイヴ（男性）の両先生から午前中に三時間の英会話レッスンと午後のプロジェクトワークの指導を受けた。いずれもヨーロッパやアジアで永年教鞭をとられた豊かな実践経験をもつ英語教育のプロである。初回の授業では、「マジカル・ミオ」や「スモール・ショウゴ」など、学生に自分を紹介する単語を加えた呼び名を考えさせて場を和ませ、「フォーチュネットリー／アンフォーチュネットリー」などの対立的な副詞をキーワードにした単文を作らせ、みなで物語を作り上げる授業などが行われた。教師は学生の発声した単語や文章をしっかりと受け止め、一人ひとりの英語への理解や喜びを大切に育ててゆく。また、他大学の学生とのジョイント・クラスで行われた「旅行者・旅行社ゲーム」なども、学生を能力別に限定しないで持てる力を引き出してゆく言語教育の実践例として興味深かった。このような直接体験こそ短期留学の真骨頂と言えよう。異文化の環境に身を置いて、英語という言語世界の中で生きてみることは、何ものにも代え難い貴重な国際体験となる。彼らの笑顔のなかに、二十一世紀の「遣唐使」の可能性を見る思いがした。

最後に有形無形の様々な援助をしてくださった方々に心よりお礼を申し上げる。

【8月11日】カンタベリー市街で行われた午後のプロジェクトワーク

【8月18日】ケント大学キャンパス内でのイタリア人留学生との交流

英国留学体験記

留学体験から得たもの

国史学科二年　田岡有希

私は、英語が苦手だ。正直、短期留学を応募する上で、特に語学面に不安があった。しかし、このような留学の機会は人生の中でも滅多になく、また英語力を就職までに向上させたいという思いから参加を決意した。

ケント大学での授業では、自ら積極的に発言するように努めた。授業で大切なことは、疑問点は先生に聞くという姿勢だからだ。先生は単語を羅列しただけでも聞き取ってくれ、私たちが理解するまで何度も繰り返し指導してくださった。また、間違いを恐れない勇気も大事だ。これらのことはよく耳にすることで、「それが実行できたら苦労しない」という人もいると思うが、日本にいる時よりむしろ実行しやすかった。というのも、教えてくれる先生は当然ながら英国人で、授業はすべて英語で行われる。つまり、私がわからないことは、共に受講している仲間も同様であることが多いのだ。だから、間違えることに対して、何ら恥じらいはなかった。それに先生は失敗が気にならないような雰囲気作りが上手く、私たちは〝楽しみながら学ぶ〟といった学習の本質を体感することができた。

「自分は英語が不得意で、でもそれを何とかしたい」と思っている人にこそ、この留学に参加してほしい。なぜなら私自身がこの体験を経て、英語にすごく興味を持ったからだ。渡英にあたり、英国についていろいろと調べた。帰国後は、これまであまり聞かなかった洋楽や洋画に興味を持つようになった。そして何より、もっと英語を勉強したい、話せるようになりたいと思うようになった。この変化は、私が留学体験を経たからこそ生まれたもので、〝大学〟というところは自ら意識して学びを見付けていくところだ。英語に興味のある皆さん、ぜひケント大学で生きた英語を学んでみてください。参加したからこそ得られる何かを必ず発見できますよ！

価値観が変わった一カ月

国文学科二年　坂本陽祐

ロンドンで起こった暴動から逃れるようにケント大学へやって来た私たちを出迎えてくれたのは、ライトアップされたカンタベリー大聖堂だった。ケント大学は、カンタベリーの街並みを丸ごと見下ろす小高い丘の上にある。その夜景の美しさは一瞬にして、私を英国の虜にした。

英国では、人々の生活に精神的な余裕を感じた。特に整然と手入れされた美しいイングリッシュガーデンや〝ジェントルマンの国〟と称されるように自分以外の他者へ対する心遣いは見事だった。先にドアの外へ出た人が最後の人が出るまでドアを押さえているという習慣が日常なのだ。これは日本では滅多に見ることのない光景であり、そこに文化や生き方に対する〝ゆとり〟を感じることができた。このことは、ほとんどのショップや施設が夕方定刻に閉まり、仕事とプライベートがきっちり線引きされていることからも窺い知ることができる。

さて、留学生活の醍醐味は、何と言ってもその街を存分に体感すること。街へひと度出れば、英語がその自らの会話力云々の前に唯一のコミュニケーションツールとなる。この恵まれた環境での一カ月は、私たち各々の既成観念を打ち破り、多様な価値観を会得するに充分な時間だった。

毎日が好奇心の連続だった。ドーバー城から見た対岸のヨーロッパ大陸、毎夜のように繰り出したKバーでのビタービール、ケント州ならではの英語方言や訛り、ダンスやスポーツで深めた異文化交流、〝茹で過ぎ・焼き過ぎ・揚げ過ぎ〟三拍子?!揃ったラザフォードカレッジでの食事、ロンドンで観たミュージカル『ライオンキング』。伸び伸びと笑ったり、泣いたりした日々のシーンを誰もが生涯忘れないと思う。

様々な交流や体験の中で学んだことも多かった。友情に国籍は関係ないという確信、消極的な姿勢からは何も生まれないこと、日本の長所や短所を客観的に見ることなど。これらのことは、きっと将来役に立っていくだろう。

〝学生〟というモラトリアムの中で体験するこの時期の留学は貴重だと思う。なぜなら、感受性の享受と様々な挑戦機会は若さの特権であるからだ。

イベント情報（12～1月）

12月

1（木） 現代日本塾　621教室
地域密着型経営と今後の展望
◆赤福㈱社長　濱田典保 氏

3（土） 古文書講座　711教室
近世文書を読む ◆上野秀治 文学部教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「**神道の作法（1）**」
◆本澤雅史 文学部教授

10（土） 月例文化講座　431教室
幻の東京オリンピックについて
◆中村哲夫 教育学部教授

皇學館大学神道研究所公開学術シンポジウム　佐川記念神道博物館講義室
神宮祠官の学問 ◆【司会】本澤雅史 文学部教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教「奈良の諸寺院（薬師寺ほか）」
◆河野訓 文学部教授

17（土） 古文書講座　711教室
近世文書を読む ◆上野秀治 文学部教授

ふるさと講座　名張市武道交流館いきいき多目的ホール
江戸川乱歩と名張～路地の奥の幻影城主～
◆三品理絵 文学部准教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「八十神の迫害」
◆白山芳太郎 文学部教授

24（土） 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「**神道の作法（2）**」
◆本澤雅史 文学部教授

1月

7（土） 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教「奈良の諸社（大神神社と談山神社）」
◆河野訓 文学部教授

14（土） 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「大国主の国作り」
◆白山芳太郎 文学部教授

21（土） 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「**万葉集、額田王と大海人皇子の贈答歌**」◆大島信生 文学部教授

26（木） 現代日本塾　621教室
博物館と日本の文化 ◆東京国立博物館長　銭谷眞美 氏

◉各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認いただきますようお願い致します。
◉共催講座（近鉄文化サロン阿倍野）のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野（0120−106−718）へお願い致します。
◉その他お問い合わせは、皇學館大学企画部（☎0596−22−6496）へお願い致します。

編集後記

◆前号三十四号の四面、ゼミ旅行報告の記事において、大学院・国史学専攻の原稿に表記の誤りがありました。
㊥ 大宰府天満宮
㊣ 太宰府天満宮
ここに深くお詫びし、訂正させて頂きます。

◆師走を迎え、平成二十三年もいよいよ残りわずかとなりました。本学も来年度の創立一三〇・再興五十周年記念行事に向け着々と準備を進めております。皆様方が輝かしい新年を迎えられますようお祈り申し上げます。【企画部】